公開実用 昭和57—179569



(4,000円)

寒 用 新 案 登 録 願 (1)

昭和56年5

懂

特許庁長官殿

1. 考案の過称 筆筆筆音

2. 考 案 者

3. 実用新案登録出願人

住 所 静岡県議名郡可美村高塚 500 香地

4. 代 理 人 (〒101)

住 所 東京都千代田区神田駿河台1の6。主婦の友ピル

(電話(291) 9721~4)

爪 名 (6271) 萼

爱 美



派付書類の日録

(1) 明細書

X

(2)

1 通 ()

(おか

特許庁

(3) 顧書副本 1 通

5ft 5, 13

出现第二章

1 通

V 56 068448

BEST AVAILABLE COPY



明 細 書

1 考案の名称

運搬装量

- 2. 実用新案登録請求の範囲
 - (1) フレーム下部の前部両側に車輪を取り付けると共に後部下部には脚状のスタンドを取り付け、前記フレーム上部の後部には棒状のハンドルの基端を上下方向に起伏自在に取り付け、該ハンドル基端の枢着部に、該ハンドルの回動角を規制するストッパーを取り付けたことを特象とする運搬装置。
- 3.考案の詳細な説明

本考案は、たとえば発動発電機などのように 重量物であって、しかも運搬することが多い機 種の運搬を非常に楽にする運搬装置に関するも のである。

発動発電機は、電源設備のないところで電気機器の使用ができることから非常に便利なものであるが重量物であるので、その運搬になんらかの工夫が必要となる。すなわち、もし吊下げ

(1)

119569

公開実用 昭和57-1179569



1 }

用のハンドルだけで車輪を設けていないときには、重量が大きいだけに運搬が困難となる。そこで下部の四隅に車輪を取り付けると運搬は小さな力で行なわれることになるが、停止時にないの停止装置を設け、これを使用しなければならないことになって、構造が複雑となる上に操作が頻雑となり、さらに4輪の場合、方向転換が困難となる問題がある。

本考案はこの問題を解決するために成されたものである。本考案の一実施例を図について説明すると、1はフレームであってパイプ材でははコ字状に形成されているものである。このフレーム1の内部には発動発電機2(詳細の図示は省略)が搭載されている。フレーム1下部の前部両側には車輪3が取り付けられている(向う側は図示略)。4は車軸である。

フレーム 1 下部の後部には板体をコ字形に折り曲げて形成したスタンド 5 が取り付けられている。またフレーム 1 上部の後部にはプラケット 6 が取り付けられ、棒状のハンドル 7 の基端

(2)



を上下方向に起伏自在に枢着している。ハンドルフの先端にはグリップ8が取り付けられている。ブラケット6には、配示しないがストッパーが設けられており、ハンドルフのグリップ8がほぼ水平に向いた姿勢でそれ以上、上方に回動しないようにしてある。

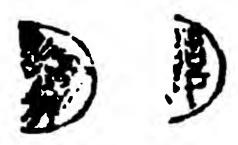
とのように構成されたこの運搬装置は、ハッマを図に実施で示すように超としてが面というが成立して、カットの発生というにはなる。それでは、カットを表している。というでは、カットを表している。とは、カットを表している。とは、カットを表している。とは、カットを表している。というに下方に下げた表勢にしておく。

本考集は上述のように構成したものであるか ら、次のような利点がある。なお、重量物は発

(3)

136

公開実用 附和157—1179569



動発電機に限らないととは言うまでもない。

- ① 選挙および使用状態への操作がきわめて容 品である。
- ② 車輪は2輪であるため、選働時の方向転換 が容易に行なわれる。
- ⑤ 使用時の制動は自然に行なわれるので、危 験がない。
- ④ ブラケットの取付位置とハンドルの形状を 適宜選定することにより、体格の異なった人 それぞれに合わせることができる。
- 4. 國面の簡単な説明

題は本考案の一実施例の概略を示す側面図である。

1 … フレーム

2 … 発動発電機

5 … 車 輪

5 … スタンド

6 … プラケート

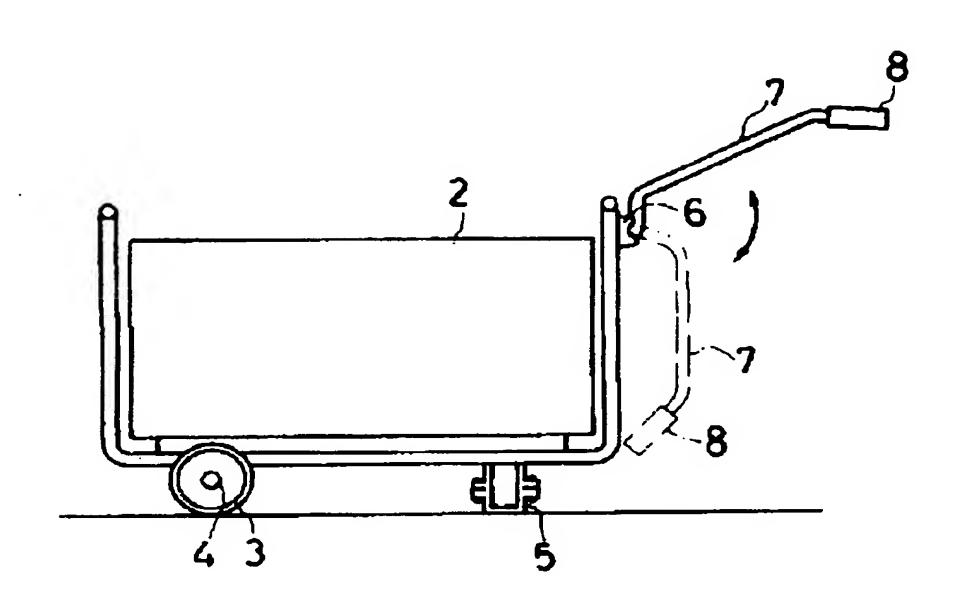
フ…ハンドル

8 … グリップ

(ほか1名)



(4)



7 1, 1, 3

代理人 岁 复美外 1 名 738 平36

公開実用 旧和57—1179569



6 前配以外の代理人

住所 東京都千代田区神田駿河台1の6

主備の友ピル

氏名 (6861) 粤

经 夫



739